

日本

ハンザキ研究所ニュース 2011(5) : 通巻 No. 65

発行2011年5月31日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel/Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

URL: http://www.hanzaki.net

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

今、流行のハイブリッド

ハンザキと中国ハンザキの困ったハイブリッド問題ですが、ようやく対策検討委員会が開催されました。京都市教育委員会が文化庁の補助を受けて実状調査と対策を検討することになったのです。第1回委員会が文化庁の江戸調査官や環境省の近畿地方事務所、京都府教育庁などの出席があり、京大・松井教授委員長の下に開かれました。私どもでは平成20年からハイブリッドを受け入れて当初の5個体から87個体にもなっていました。その内の13個体は死亡していますので、目下74個体を収容していることになります。

委員会ではDNA鑑定の結果、日本産ではないことがはっきりした時点で“殺”処分にするべきであるという意見も出ました。生き物を生かすことを仕事にしてきた私としては、できれば殺したくない思いが強くなります。しかし、野放しにはできません。



魚の臭いに群がるハイブリッド

京都賀茂川のハイブリッドのルーツが1972年の日中国交回復に乗じて素早く1トンの中国ハンザキを輸入した業者からのものであるならば、僅か40年足らずの間に日本産がほとんどいなくなっていることや、全長130センチもの大きなハイブリッドが存在することなどは、どのように考えたらいいのだろうか？ 雑種強勢と言われるように病気に強く成長も早いのだろうか？ いずれにしても、これからの実態調査の結果次第だが、賀茂川から全てを排除するのは大変な努力が求められることでもあり、囲い込める程度の数ならばいいが、そうでなければ処分することになるだろう。輸入業者は岡山のため池に収容しており、そこから脱走したとの噂もある。岡山県における調査も急いで実施する必要があると思うが、他の地域においても大きいからハンザキだと断定してしまうのは問題だ。



写真1 生野小学生の餌やり



写真2 ポンプピットの砂

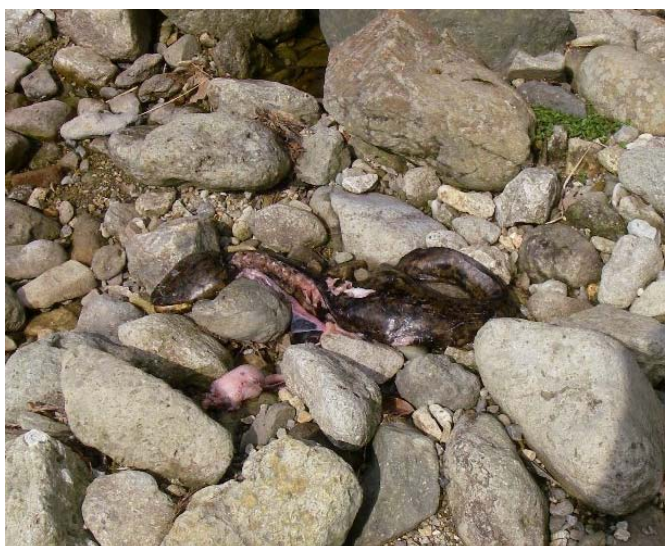


写真3 オオサンショウウオの死体



写真4 死体は熟卵とゴマ粒程の卵を持っていた



写真5 大増水のアンコ淵



写真6 前畑ナマズ博士の講演

オオサンショウウオの死体

朝 7 時過ぎに電話が鳴った。ハンザキの死体を 5～6 羽のカラスが突いていると言う地域の方からの情報であった。朝食のビールを飲んでいる所だったので、1 時間ほど後に現場に出向くと 1 羽のカラスが飛び去った。場所は 2 基弱下流の簾野橋直下である。左肩周辺が大きく突かれて損壊しており (写真 3)、マイクロチップを読み取ることができなかった。もしかしたらカラスの腹の中で反応するのかもしれない。

持ち帰って撮影、測定 (全長 78 ㌘)、解剖した結果、意外な疑問がおこった。その 1 は、胃袋にサワガニ 3 個体、シマドジョウ? 1 尾、カワムツ? 2 尾が詰まっていたことである。こんなに餌を取ることができた元気なハンザキがなぜ死んだのだろうか? ハンザキの体も新鮮で全く腐敗臭もしていなかったし、サワガニは食われたばかりかのような状態である。疑問の 2 は、熟卵サイズの卵と、ゴマ粒のような卵が見つかった (写真 4) ことである。ハンザキの産卵期は 9 月前半が多いので、8 か月前の卵が残っていたのだろうか、それとも 4 か月後の産卵のためのものだったのだろうか?

新鮮な死体は中々手に入らない。しかし、今回の標本は左肩を中心に大きく破壊されていたので、パーツをサンプリングすることにした。頭部は口を大きく開いて固定した。歯の様子が良く分かる。前足 4 指、後足 5 指と別々にビンに入れた。尾部の脂肪層も見える。胃内容物も貴重な標本となった。地元の方からの貴重な情報だった。

.....

大水と砂の堆積

今月は 2 回も大水が出た。10 日から 11 日は山を下りて不在であった。12 日の午前中にハンザキ研へ帰ると揚水ポンプのアンペアが 5 まで下がっている。飼育プールを見に行くとチョロチョロの水しか出ていない。日直の方もポンプを ON・OFF させてもすぐにアンペアの低下が起こると言う。ポンプ・ピットに砂が溜ったようだ。年に 1 回は起こることであるが困ったものだ。1 ㌘ほどの隙間しかないグレーチングを通して濁流が浸入するのだ。濁流はつまり土砂を含んでおり、ポンプが吸い込むことができる細かいものはプールに堆積するが、少し大きな砂粒はピット内にあつという間に溜ってしまう。ピットには砂を沈殿させる区画もあるが、大水の搬送力にはかなわない。水が引いた後で覗いてみると山のように砂が盛り上がり堆積している。ポンプ室側への隔壁を越えて砂が流れ込み、ポンプが埋没してしまう。ポンプを止めると 100 ㌘ほどの配管内の水が逆流して、ポンプ周囲の砂を飛ばすが、すぐに砂が崩れてきて揚水量が減少してしまうのだ。

30 日の台風 2 号によって、再び砂が溜ってしまった。上流にある関西電力の黒川ダムからの放水もあって、恐ろしいほどの濁流になる。しかし、1 か月の内に 2 回ものトラブルでは、河川からの取水と言うのは難しいものだと思わせられた。夜中に 2 時間おきに起き出しては暴風雨の中でポンプを ON・OFF させたが気休めにしか過ぎない。

生野小学校 5 年生の自然学校

毎年 5 年生全員が自然学校の一端としてハンザキ研を利用してくれる。生野の街で育った子供たちだが、間近に大物を目にする機会はそんなに無いだろう。今年も昨年が続いて 38 名の元気な児童がやってきた。ハンザキ研を巡る豊かな自然環境と共に、そこに同居する危険についての話・・・マムシ・ヤマビル・スズメバチ・ムカデやイバラなどの実物も見せる。ここは遊園地ではないので危険も沢山あるのだということを理解してもらうのが目的である。私の自慢のグッズはガチャポンの容器に入れたヤマビル君である。血を吸われる前に捕まえたヒルを入れておき、空気を吹き込めるようにしてある。それまでジッとしていたヤマビルは吹き込まれた炭酸ガスに反応して踊りだすのだ。鎌首をもたげたヘビのように吸い付く相手を探して首(?)を振り回す。これを回覧すると皆が息を吹き込むのでますますヒルが興奮する。

圧巻はハンザキへの餌やり体験(写真1)だろう。竹竿の先に針金のフックを付けたものを一人一人に持たせて餌の魚を付けさせる。昼間は宿の中で休息中のハンザキであるが、鼻先にうまい魚の臭いがすると反射的にパクリと食いつく。その振動が竿を通じて手に響くと子供たちはウワッ!と歓声を上げる。この感動は何回味わっても新鮮なものである。機会あるごとに経験していただくようにしているが、朝来市内の児童生徒の皆さん全員にも味わってほしいと思っている。

.....

第 3 回通常総会と理事会、公開講演会

22 日に無事に終了しました。理事会では 4 名の役員が退任し、9 名の新任役員が加わり、合計 18 名の理事・監事と 16 名の事務局員という構成でこれからの 2 年間の運営に係わっていただくことになりました。副理事長には鳥取大学の岡田純博士がハンザキ研の将来を担うべく着任して下さることになりました。ハンザキ研が今後長く存続していくには若い人たちへのバトンタッチが欠かせません。一人の人間では太刀打ちできないハンザキの生態を解明するには、次々と世代を超えた継続がなされねばならないのだと考えています。岡田さんの後、またその後を継いでくれる人材の確保は最も重要な問題です。私の後は岡田さんを盛り立てて皆さんが支援して下さいを願っています。

その意味でも、竹村国宏・竹村正典という 20 代の地元の若者二人が事務局員になってくれたことは朗報です。将来を任せていけるスタッフとして期待していますが、二人とも今から 20 年前の黒川小学校最後の生徒として私がハンザキの話をしてあげたことがあるのも何かの縁と言う所でしょう(当ニュース No.24 参照)。

公開講演会には、長年の水族館仲間でもあった琵琶湖博物館をこの 3 月に定年となったナマズ博士の前畑政善さんをお願いしました。日本産ナマズ 3 種の生態に熱の入った楽しい講演でした。

お知らせ

ハンザキの里帰り

2007 年からオオサンショウウオ保護センターに収容していたハンザキが元の川に返されることになりました。市川に造られた生野ダム下流の河川工事が終了したのです。ここは山がずれてきて川をほぼ直角に押し曲げて道路が狭くなっており、積雪時には除雪車の作業で歩道がなくなってしまう場所でした。山がずれてくるのを押さえて川を元の位置に戻し道路を拡幅する工事が 3 年がかりで実施されて来た所です。昨年度で河川内の工事が終了し、後は道路部分の工事が残されているだけです。3 年間もの長い間狭いプールで生活していたハンザキたちを元の川へ戻すことになりました。

河川工事は生物に配慮した工夫がなされてのことですが、人間が考えたことがそのまま自然の世界で通用するかどうかは難しい所です。そのために約半数のハンザキを原状復帰させ、追跡調査を実施して、その結果によって残りを戻すことになりました。3 年間の飼育は、途中から当法人が委託を受けましたがハンザキ研としての責任は重いものがあり、私は 1 年の内のほとんどを研究所で過ごす事になりました。昨年は 351 日と言う滞在新記録を打ち立てました。

放流は 6 月 20 日 10 時 30 分から生野小学校 6 年生の手によって行われます。出石川における放流では、危険な生き物を小学生に持たせるとはけしからんと抗議電話が文化庁までなされた由です。しかし、扱い方については事前のレクチャーを行い、傍らには大人が付いてのイベントでした。画面だけ見ての意見だけではなく、この経験をした子供たちが将来の市川のハンザキの保護者になってくれることを念じてのことだと理解していただきたいと考えています。皆様も時間があれば是非ご参加ください。

.....

ハンザキ所長のツブヤ記録

平成 20 年 8 月に NPO 法人の認証を兵庫県から受けました。当初の目標だった 200 会員を超えて約 300 人もの皆様のご支援を受けての運営は順調かと思えます。しかし、素人集団での運営ですのでミスも多くご迷惑を掛けてきたことも事実です。当初の会員の方には無理やり義理でのご支援もあったことと思えます。3 回目の総会を機会に継続の確認をさせていただきました。まだ最終的な会員数が出ていませんが、今後ともできるだけ多数の皆様方のご支援をお願いいたします。

そのような状況の元で多くの皆様からの寄附金をいただき感謝しています。今年度の会費の振込みと同時に 8 名の方から合計 524,000 円の寄附と構内に置いた募金箱から 15,300 円の支援を頂きました。生まれては消えていく NPO とのことで、金銭的な援助と後継者問題と組織を動かしていくスタッフの情熱が 3 本柱だと思います。これからもハンザキをシンボルとして環境学習の拠点と地域の活性化に貢献していきたいと考えています。

ハンザキ研日誌

2011年5月

- 1日 アサヒTV “奇跡の地球物語” 放映
- 3日 アミガサタケ 20本確認、昨年は3本だけだった (構内で)
- 4日 ・横浜から原発避難中の親子見学に
- 6日 生野小学校から見学の下見に
- 7日 事務局会議 10名出席
- 8日 ・オオサンショウウオの新鮮な死体の情報あり、収容
・魚ヶ滝で水遊び中の家族がハンザキの0歳幼生2匹搬入
・モリアオガエルの池にシェルターセット
- 9日 ・オオサンショウウオの月例健康診断
・寄附金の箱から万札が、合計 15,300円有難うございました
- 11日 京都市教育委員会主催のチュウゴクオオサンショウウオ委員会へ
- 12日 ・池上副事務局長の車で来所
・元・川崎医科大学教授の佐藤国康先生と夫人来所
- 13日 兵庫県但馬県民局長他の視察あり
- 15日 兵庫県生物学会、姫路獨協大学にて「ハンザキの調査研究 37年」講演
- 18日 ポンプピットの砂一部掻き出し
- 19日 山南電化、ミニホールの電源修繕工事
- 20日 ・第2駐車場の整備、バラス敷き
・養父土木事務所とコマドメ建設、ポンプピット視察に
- 21日 ・コマドメ建設、ポンプピットの排砂作業
・安佐動物公園の田口氏、大阪府立大学生など8名来所、魚ヶ滝調査
- 22日 ・NPO理事会
・NPO第3回通常総会開催、24名出席
・神戸学院大学教授の前畑政善博士のナマズの話公開講演会
・田口氏0歳幼生2個体、1歳幼生1個体搬入、魚ヶ滝の水溜りで発見
- 23日 ヤマアカガエルの幼生3匹孵化
- 24日 但陽信用金庫生野支店長の村上氏来所
- 25日 ハンザキの餌やり棒40本整備
・生野小学校5年生38名の自然学校対応、各自でハンザキに餌を与える
・NHK取材班来所、ハンザキの交雑種問題で6月1日まで
- 26日 エアーポンプ10台整備
- 27日 NHKクルー交雑個体の特徴取材
- 28日 神戸市立須磨海浜水族園の助成金説明会へ (奥藤事務局長、黒田理事)
- 30日 台風2号の大雨で関電黒川ダムから大量の放水ありポンプピットに砂が入った